

戸田康之さん『ろう教育 Part.2』

戸田です。よろしく。

今日お話しするのは、ろう教育についてです。埼玉県のろう学校での教育についてお話ししたいと思います。

《10/26 配信『ろう教育 Part.1』につづく》

“デフフッドの視点を踏まえた授業”とは何なのか、イメージできない人もいます。例をご紹介しますね。

中学部には英語の授業がありますよね。英語に限らず、国語、数学、社会など、授業には教科書を使います。小学部から高等部まで、どの学年にも教科書はありますが、その教科書を作っているのはろう者ではないですよ。国が作るものですから聴者が作るわけです。聴者が作った教科書をろう学校でも使っています。それは当然なのですが、その教科書にはろう者に関することは書かれていません。教科書を作るのは聴者ですし、ろう者のことは全く知りませんから、仕方のないことです。どの教科の教科書も、聴者が編纂した内容をろう学校でも教えるのは当然ですが、ろう者のこと、ろうの世界やろうの歴史、ろう文化、ろうに関する情報といったものは一切載っていません。ですから、ろうの子どもたちが特に学ぶべきことを授業に取り入れる必要があるんです。先ほど挙げたろうの世界、歴史などろうの子どもたちが学ぶべきことを教科書の内容に盛り込みながら授業を行う、これが“デフフッドの視点を踏まえた授業”です。

その中の英語の授業を例に挙げますと、中学 1 年生では自己紹介の単元がありますね。「私の名前は戸田です」が「My name is Toda.」というような。聴者が作った教科書の通りに授業を進めるのはよいのですが、子どもだろうと大人だろうとろう者なら必ず言う一言が教科書には載っていないんです。自己紹介する時に必ず言うこと、何ですか？名前ももちろん言いますが、それ以外に必ず言うこと。

「私／ろう（私はろうです）」

言いますよね？自己紹介で。でも、この一言が英語の教科書にはありません。

『ろう』は英語で言うと『デフ：Deaf』。ですが、中学生のどの学年の教科書にも『Deaf』という単語は紹介されていません。高校の教科書にもありません。中学から高校までのどの学年の教科書にも『Deaf』という単語は載ってないんです。聴者が作った教科書ですから仕方ありません。『Deaf』という単語をわざわざ載せる必要がないですもんね。

でもろう者はどうでしょうか。自分がろうであることを英語できちんと書き表せるように学ぶ必要がありますよね。デフフッドの視点を踏まえた時には、英語の教科書には載ってなくても、教科書の内容に加えてろうとして学ぶべき

内容を盛り込み、将来子どもたちが大きくなってろうとして生きていく、また海外に出て行った時に筆談で「**I am Deaf.**」と相手にきちんと伝えることができます。これは生きる力にもつなげることができます。これが“デフフッドの視点を踏まえた授業作り”です。

今、埼玉県では新しい考え方を取り入れた授業として、ろうの子どもたちが学ぶべき内容を盛り込んだ授業が始まっています。新しいろう教育の専門的な教育方法だと思います。埼玉県でこれから取り組んでいきたいです。

今年度、坂戸ろう学園の教育目標に「デフフッド」という言葉が盛り込まれました。次は大宮ろう学園が、そしてゆくゆくは全国のろう学校の教育目標に「デフフッド」が取り入れられていって欲しいなと思います。もし機会があったら、インターネットで坂戸ろう学園の教育目標を見てみてくださいね。

それでは！